

平成 26 年度温室効果ガス排出量内訳の計画値と実績値の比較

平成 26 年度温室効果ガス排出量内訳は下表のとおりである。

内訳	計画値	実績値	実績値－計画値
①焼却CO2排出量	108,026	100,645	△ 7,381
②焼却CH4排出量	5	5	0
③焼却N2O排出量	3,988	4,426	438
④清掃工場で使用する電力・燃料	15,423	15,758	335
⑤六フッ化硫黄排出量	28	33	5
⑥売電熱供給分	△ 26,347	△ 29,587	△ 3,240
合計	101,124	91,281	△ 9,843

※ 平成 26 年度の計画値は、平成 22 年度の実績値（温室効果ガス排出量／焼却ごみ量）に基づき、平成 26 年 10 月から実施予定であった、プラスチック製容器包装再資源化による削減効果を勘案して算出している。

平成 26 年度温室効果ガス排出量内訳について、計画値と実績値を比較すると、

- ①焼却CO2排出量の実績値が、計画値と比べて7,381トン少なく、
- ⑥売電熱供給分の実績値が、計画値と比べて3,240トン少ない。

これらは、計画と比べて実績が以下のとおりとなったことによるものである。

- ①は、焼却ごみに占める廃プラの割合が減少していること（計画16.4%→実績14.8%）。
- ⑥は、焼却処理量が増えたこと（計画247,566トン→実績250,531トン）に加え、3 清掃工場の中で、売電熱供給効率の良い新港清掃工場での処理割合が若干増えていること（計画40.6%→41.4%）。

焼却ごみに占める廃プラの割合が減少している理由として、以下の点が考えられる。

- ①企業努力により全国的にプラスチック量が減少している。
 - ペットボトル以外のプラスチック製容器包装の再商品化義務総量の推移を見ると、平成 22 年度が906,950トンであるのに対し、平成 26 年度は751,410トンであり、155,540トン（17.1%）の減少となっている。
- ②スーパー等小売店によるレジ袋削減の取り組みや食品トレイの店頭回収が増加している。
 - ちばルール協定店の実施状況
 - ・レジ袋有料化など、レジ袋削減・簡易包装の推進
（取組み店舗数：108店舗（平成 22 年度）→139店舗（平成 26 年度））
 - ・食品トレイの店頭回収
（取組み店舗数：71店舗（平成 22 年度）→78店舗（平成 26 年度））